

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

新型コロナウイルス禍での就職活動について

関西支部長 武知 秀行 (昭57年卒)



令和4年5月に関西支部長を拝命した武知です。

私は昭和57年に電気系教室（卯本重郎教授の研究室）を卒業しました。

卯本教授の研究室には他励寿会というOB会があり、卒業後もお盆の時期に京都で開催されるOB会には都合がつく限り出席させていただいておりますが、洛友会の行事には今までほとんど参加していません。今回、支部長就任の要請をいただいた際にはその重責を全うできる自信な

く躊躇しておりましたが、経験豊かな幹事の皆様のご支援をいただけたということで引き受けさせていただきました。

私の経歴ですが、卒業後は三菱電機（株）に入社し、伊丹製作所にて当時、東京電力（株）が計画していたUHV（100万ボルト送電）プロジェクト向けにUHV用電力開閉機器（GIS: Gas Insulated Switchgear）の開発設計を担当していましたが、その後、UHVプロジェクトが中断されたことから、同じ伊丹製作所で製作していた駆動用モータや推進制御装置、列車統合管理装置（TCMS: Train Control Management System）、列車内映像情報システム（トレインビジョンR）といった電車に搭載される電機機器の開発設計や車両用電機機器の技術取組め等の業務を主に担当していました。

その後、伊丹製作所の所長時代にポーランドの車両用電機機器を製作する会社を買収した関係から、買収後の統合作業（PMI: Post Merger Integration）のため、2年半ほどポーランドの会社に赴任した後、統合作業が一段落した2018年4月に日本に戻り、三菱電機コントロールソフトウェア（株）（MCR）に転籍しました。

今年4月にMCRを含め三菱電機グループのソフトウェア会社6社が統合され、新たに三菱電機ソフトウェア（株）（MESW）として再編されたことから、現在はMESWに在籍しています。

2020年の年明け頃に発生した新型コロナウイルスのパンデミックがまだ収束せず、現在は第7波とよばれる陽性者の急増に直面していますが、新型コロナウイルスが発生したこの2年余りの間、大学生の皆さんは休講やリモートでの授業が中心となり、クラブやサークル活動も中断する等、友人や仲間との密なコミュニケーションができない生活を強いられ、大学生活も大きく変わったのではないかと感じています。

同時に、新型コロナウイルスの影響により最近の学生さんの就職活動も大きく様変わりしつつあり、MCRおよびMESWにおいて採用活動

の責任者として最終面接を担当し、毎年60名前後の新卒者の採用を行ってきたことから、最近の状況について感じたところをお伝えしたいと思います。

私が就職活動をした頃は、特に理系の学生さんは学校推薦を取得して企業の採用試験や面接を受けることがほとんどで、学校推薦があれば余程のことがなければ不採用となることもなく、いたってのんびりした就職活動であったように記憶しています。

新型コロナウイルス以前は、会社説明会や卒業生（OB）の大学訪問による会社説明等により、就職希望の学生さんに会社の業務内容や待遇、福利厚生制度、また、入社後の教育研修制度などを対面で説明し、興味を持たれた学生さんには会社が設けたインターンシップ等に参加いただき、ある程度入社への意思を固められたうえで入社試験や最終面接を受けて頂くという形で進んでいました。

新型コロナウイルスが発生して以降、感染拡大を防ぐため人と人とのコンタクトを極力避けることが必要となったことから、学生さんは企業の検索や調査に、いわゆる“リクナビ”に代表されるインターネットの就職情報サイトをフルに活用され、それぞれの企業の業務内容や入社後の教育研修制度、待遇面

等の調査を行ったうえで希望する企業を選択し就職活動を始められています。

採用に関する試験や一次面接、最終面接までもリモートで実施することが主流になったことから、企業への申し込み（エントリー）が非常に容易になり、学校推薦を取得することなく自由応募という形で多数の企業へエントリーされることが普通となりました。複数の企業からの内定を取得している学生さんも多数おられ、入社直前になって内定を辞退されるケースも発生することから、採用する企業側としては内定された方が本当に入社してくれるのか判断に迷うところもあり、採用予定数以上に内定通知を発行するようになりました。

また、インターネットを介しての応募が可能となり、日本全国から応募される方も増加しましたが、今年3月まで在籍したMCRの場合、神戸本社の会社であったためか関西出身の方の応募がほとんどでした。新型コロナウイルスが広がる前に地元の愛、地元志向が強くなっており、各事業所の業務内容以上に勤務場所へのこだわりが強く、面接においても転勤の有無を質問される方が非常に多く、ご両親や友人のおられる地元での就職を希望される等、従来にも増し

て内向きになっていくようです。また、待遇や福利厚生制度、残業の有無を含めた負荷の状況、入社後の教育、研修制度への関心も高く、プライベートな時間を重視される傾向が強く、チャレンジ精神旺盛な欧米やアジア各国の若者との差がますます開くのではないかと非常に心配です。

最終面接時にはどのような職場を希望するかや質問も実施しており、ソフトウェアの開発規模に応じて大規模なものは大多数のメンバーが共同で開発することになりますが、従来は多数のメンバーで構成される大きなプロジェクトに参画することを希望する学生さんが多かったのですが、新型コロナ以降では少人数で対応する小さなプロジェクトへの参画を望まれる方が多くなっています。新型コロナの影響により人と接する機会が少なくなったことから、多数の人とのコミュニケーションを取ることが苦手になっていくのではと危惧しています。

就職活動の終わりは社会人、企業人としてのスタートであり、入社後の研修、教育が本人の成長に非常に重要であると認識しています。一例ですが、ソフトウェア開発業務を主に担当している会社であるMESWでは、入社される方は情報系の学科を卒業された方が

ほとんどですが、入社時点ではプログラミング経験、知識レベルがバラバラで、なかにはプログラミング経験がほとんどない人も含まれており、ソフトウェアエンジニアとして活躍できるよう、入社後に2〜3か月間、ソフトウェアに関する基礎研修を実施しています。研修開始時に理解度テストを実施し各人のレベルに応じた研修を実施しており、理解度を把握するため、研修途中での理解度テスト、研修終了後の理解度テストも実施しています。

また、入社された方の入社後の成長及び活躍の度合いを把握するため、入社後10年にわたって調査も実施しています。卒業された学校の偏差値や学生時代の成績、入社後の研修で実施した3回の試験成績と、入社10年後の成長、活躍状況にはそれほど大きな相関は見られないようで、入社後の各人のやる気と業務に対する取り組み姿勢、そして配属された職場の環境や先輩方の指導、教育方針等が大きく影響していると思われ、職場環境の改善、良好な雰囲気作りに継続的に取り組むことが最重要と考えています。

はなはだ雑駁な話となりましたが、お読みいただきありがとうございます。最近の学生さんの就職活動、採

用活動で感じたことを取り留めもなく述べさせていただきますが、大学において就職担当をされている先生方、また企業において採用活動に関係されている方のご参考になれば幸いです。

教室だより

エレクトロニクス・サマー キャンプ報告2022

電気電子工科学部生を対象に、夏休みを利用して電気電子工学の面白さ・奥深さを体験するイベント「エレクトロニクス・サマーキャンプ」を開催しました。2020年、2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、3年ぶりの開催となりました(2021年度はサマーキャンプの振り返りとして春休みにはスプリングキャンプを開催しております)。最近では電子工作やプログラミングなどの経験をほとんどせずに入学してくる学生が増えています。彼らは、電気電子工学が身の回りのさまざまなところで利用されていることに思いが至らず、専門科目に対する興味や学習意欲になかなか火が付きません。学科として、この問題は極めて重大と考え、さまざまな取り組み

みをおこなっています。今年度のサマーキャンプは9月26〜28日の日程で吉田キャンパスにて開催しました。1〜3年生を対象とし、単位は付与せず、学生本人が自主的に参加する形式を取っています。多くの方々のご支援をいただき、今年度で14回目の開催となります。3年ぶりの開催となりましたが、募集開始すぐに定員に達する学年もあるなど、学生の間でも人気となっています。

サマーキャンプでは与えられた課題に3日間をかけてじっくりと取り組み、創意工夫や試行錯誤を積み重ねます。明確なゴールを用意しないことで、参加者の数だけアイデアが生まれることもサマーキャンプの大きな特色です。キャンプと称していますが、実際に宿泊するわけではありません。ただ、時間を気にせず、仲間とコミュニケーションを密にしてキャンプの気分で充実した時間を過ごそうという意味でこの名称を使っています。実際のところ、最終日前夜には多数の学生が徹夜で製作・調整に取りくんでしまうのも恒例になりつつあり、彼らとそれに付きあったTAにとっては名実ともにキャンプとなっています(今年度は感染症対策のため徹夜は禁止といたしました)。最終日にはコンテストという形で学生達に成果を

披露してもらい、優秀者には学科長名で賞を授与しています(後援の洛友会からは副賞として数千円の図書カードを贈呈)。

また、学部時代に参加してくれた学生が大学院生となり、TAとしてサマーキャンプの企画・運営として活躍してくれています。今年度は、11研究室から23名のTA(学部4年生、大学院生)が参加してくれました。学生TAが主体的になつて企画・運営をおこなう姿は学部生にとっても良い影響を与えています。また、サマーキャンプに参加した学生が研究室に配属されて活躍しているという話もよく耳にします。このように学生主体のイベントとして確立しつつあります。各学年の課題は以下の通りです。

1年生

「LEGO Mindstorms によるロボット製作」

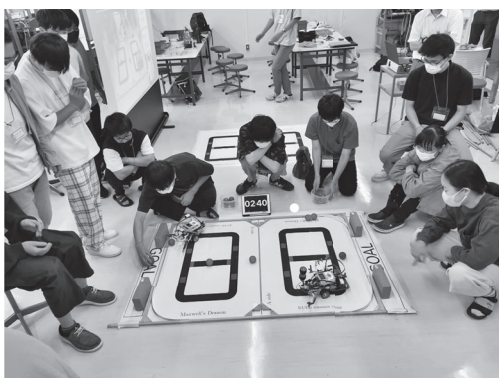
サッカーをベースとしたオリジナルの対戦競技で、マクスウェルが提唱した思考実験をヒントにした課題「マクスウェルの悪魔」を実施しました。ロボット機体としてはLEGO Mindstorms EV3をもちいて、それぞれが作成したプログラムにしたがって完全自律動作を行います。GUI

ベースとした専用のプログラム作成ソフトを使用しながら、カラーセンサをはじめとした種々のセンサを使いわけ、所望の動作をプログラムします。楽しみながらも電気電子工学の一端にふれることができ、1回生競技として10年以上継続しています。

ルールは次のとおりです。まずコートをも2つに分け、それぞれの陣地にゴールとなるフィールドを設定します。各陣地には黒色のラインを印刷してあり、このラインをトレースしながら、コート上に設置した赤球と青球を打ちわけていきます。赤球については敵陣へ、青球は自陣のゴールへと打ちわけるようにします。競技時間終了後、自陣に青球があれば1点加算、反対に自陣に赤球が残っていれば1点減点としました。また、青球を自陣のゴールまで弾けば2点加算、反対に赤球をゴールに弾けば2点減点とし、獲得点数で勝敗をきめました。

今年度は18名の参加応募があり、それぞれ7チームに分かれてロボットの製作および自律動作プログラムの作成しました。参加募集開始日ですすでに定員にまで達し、学生の間でもよく認知されるようになってきました。3日目のコンテストでは、TAチームを加えた8チームを4チームずつ2

つのリーグに分けてリーグ戦をおこない、さらに各リーグの上位2チームずつ、計4チームで決勝トーナメントをおこなって順位を決定しました。今年より、Mindstormsを新バージョンにしたことで、利用できるモータの数が増え、戦術にも幅が広がりました。また、これまで使用されなかったセンサーを利用した機体や、ライントレースをしなといった斬新な戦術を用いる機体など、多様で個性のある機体がそろいました。試合では、全勝、全敗のチームがなく白熱した僅差の戦いが繰り広げられました。1位、2位、3位のチームを表彰するとともに、独創的な機体については「TA賞」としてそれぞれ表彰しました。



2回生

「Arduinoを用いてライントレースをつくらう!」

2回生になれば、C言語によるプログラミングや電気電子回路の基礎を学習済ですので、それらを生かせる題材としてワンチップマイコンコンピュータによる装置の設計・製作及びその制御を課題としました。TAを中心に独自設計したオリジナルのライントレースを準備しました。コントローラにはArduinoを使用し、10種以上のセンサを使用できるように、拡張ボードも充実させました。商用キットでは回路がブラックボックスになっており教育用途には限界がありますが、すべてを自前で準備することで電子工作・プログラミング両面での自由度を生かしたテーマにすることができました。

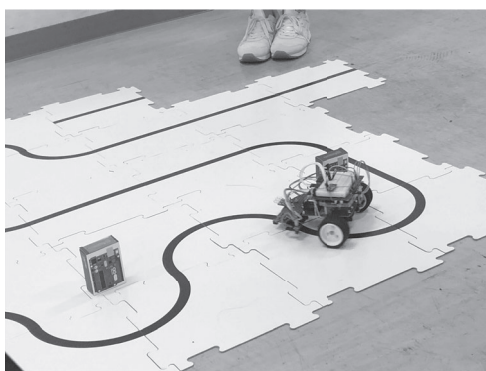
2回生の課題では1人1台ずつのライントレースおよびPCを割り当てるため、個人での取り組みを重視するテーマとなっています。今年度は12名の学生から参加登録がありました。初日の朝には、実習を含むArduinoのセミナーをおこない、初日の午後から3日目の朝にかけては、学生各自が自分のアイデアを実現すべく製作に取り組みました。2日目の午前に、各個人でライントレースの

ベストタイムを競う予選を行い、本選である駅伝のチーム分けを行いました。コースには障害物を設け、障害物に接触せずにコースを走るとボーナスタイムを加算する工夫を取り入れました。本選の駅伝では、技術・アイデアに優れた多数の機体が学生から発表されました。これに対して、最優秀賞(1チーム3名)、優秀賞(1チーム3名)、区間賞(各区分1名ずつ、計3名)を贈りました。特に今年は優秀な機体が数多く登場し、本選ではボーナスを加算した結果、総合タイムがマイナスになるチームが現れるなど、ハイレベルな戦いが繰り広げられました。また、機体がコースアウトした際にパツクして復帰するなど、工夫を凝らした戦略も見られました。

2回生のテーマでは、コースのラインを検出し、そのラインに沿って機体を正確かつ速く動かす事が要求されます。これを行うために、6つ以上の赤外線センサによってラインを正確に検出し、検出した情報をマイコンによって処理して、モータの回転数・回転方向を制御します。ラインの検出方法からモータへの出力に至るまでの一連の流れにおいて、電子工作・プログラミング両面での各個人の創意工夫や地道な試行錯誤が見られ、非常に奥の深い内容となりました。

2018年度からの新競技として、2輪型倒立振子の自動制御コンテストを行っています。この2輪型倒立振子はNational Instruments社より購入しており、ジャイロセンサ、9軸加速度センサ、ロータリエンコーダが搭載されています。参加者は3回生前期までに学んだ自動制御工学などの授業の知識をうまく生かし、倒立振子の姿勢制御プログラムの構築に取り組んでもら

した。1回生のLEGO Mindstormsから引き続いて、センシングやモータ駆動の仕組みをより深く理解することにつながっています。



3回生

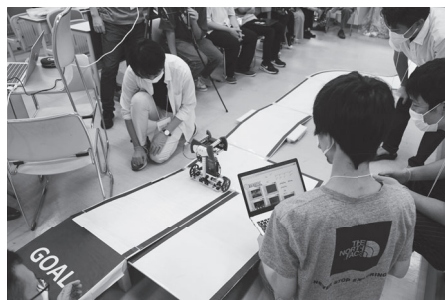
「倒立振子の自動制御コンテスト」

2018年度からの新競技として、2輪型倒立振子の自動制御コンテストを行っています。この2輪型倒立振子はNational Instruments社より購入しており、ジャイロセンサ、9軸加速度センサ、ロータリエンコーダが搭載されています。参加者は3回生前期までに学んだ自動制御工学などの授業の知識をうまく生かし、倒立振子の姿勢制御プログラムの構築に取り組んでもら

いました。

コンテストは設定されたコースをどこまで走破できるかを競うものでした。コースの達成状況は5段階で評価され、①10秒間のその場で姿勢制御、②直進コース、③S字コース、④上り&下り坂、⑤急斜面の上り坂を走るものでした。コース達成度に応じて優勝、準優勝、特別賞を贈りました。

今年度は9人の参加登録がありました。3人1組でチームを組み、3日間で制御理論を学び、その実装まで行います。制御に必要なパラメータを少し変化するだけで倒立振子の動作が大きく変わるため、どのチームもコンテストギリギリまで熱心に調整を行っていました。今年度は全てのチームが安定して倒立させることができ、優れたチームはコースを完走することもできました。



最後になりましたが、この場をお借りして洛友会のご支援に心から感謝します。また2016年度には、洛友会OBから電気電子工学科へご寄付をいただきまして、サマーキャンプの運営基金として使用させて頂いております。みなさまのご理解ご支援がございました。また、サマーキャンプ最終日のコンテストは大変盛り上がりです。元気な学生達を見ると、こちらも元気になってきます。卒業生同窓会としてサマーキャンプ(初日や二日目でも大丈夫です)を見学していただくことも可能ですので、見学ご希望がございましたら是非ご連絡下さい。洛友会のみなさまのお越しをお待ちしております。



会員寄稿

国際剣道連盟への道のり

高森 毅

(昭57年卒・東京支部)

(2/2)

これまでの留学を含む冲電気での経験、モリテックスでの経験から第2の人生に向けて考えたことは、自分の強みは何か、大切にしていることは何か、さらに何がやりたいのかなど、自分探しともいえる内省でした。その際に併せて振り返ったのが中学校から始めて今年で51年目になる剣道でした。

高校剣道部を経て入学した京大時代は体育会剣道部に在籍し、はじめな部員ではなかったですが、稽古は月曜から土曜日まで毎日2時間、日曜日も試合になる事が多くありました。当時の剣道部は80名の部員を抱える大所帯でした。それぞれ違う学部に着を置き、卒業後も異なる業界で様々な仕事に就いています。毎日の稽古、飲み会、合宿などを通じて生まれた結びつきは強く、今日に至るまで年に何回か必ず会うことが続いています。

社会人になってからは会社の剣道部に所属し、アメリカ留学中は剣道から遠ざかっていましたが、

帰国後は地元八王子の剣道連盟に所属し今は連盟の常任理事を務めています。

剣道の素晴らしいところはたくさんありますが、一番だと思えるのは「交剣知愛」という稽古を通じてお互いを理解すること、つまり仲良くなるという事です。剣道には出稽古という習慣があり、どこの道場へ一人で行っても受け入れてくれます。他のスポーツで類似の交流を聞いたことがないので剣道固有の習慣かもしれません。

出稽古は海外でも同じで、特に日本から来たと言えど誰でも大歓迎されること請け合いです。一度でも稽古をして一緒に食事をすれば、10年来の友人のようになれます。今は様々なSNSで連絡先を交わし簡単に連絡を取れるので、訪問先で知り合った剣友が来日した時に自分の道場で稽古したり、食事したり観光へ行くことがよくあります。

剣道は大きな気合を出し、汗まみれでハードだという印象があるかも知れませんが、竹刀という道具を使っている特性上、競技に必要な身体的能力は実は他のスポーツに比べて非常に少なく、一歩前に踏み出せて竹刀を振ることができれば、高齢になっても上達できる所謂「生涯剣道」という素晴らしい素晴らしさも持っています。年齢、性別

を問わずまさに老若男女が対等に稽古することができるとも特徴の一つです。

長い年月稽古を重ねていくとスピードや力よりも、心と心のやり取りが重要になって来るため60歳、70歳になってもさらに強くなることが出来ます。数年前に亡くなった地元の私の先生は八段で80歳まで稽古されていましたが、私は最後まで手も足も出ませんでした。

第2の人生を考えるにあたり、考えたキーワードはやはり英語、異文化理解、マーケティングでした。可能であれば剣道に関わる仕事と考え、安倍政権がインバウンド拡大政策を進めていたこともあり、武道ツーリズム関係の仕事を模索したり、大学のポストを探したりしている中、たまたま全剣連の国際部門の職員募集の告知を見つけ応募したところ、とんとん拍子に話が進み現在のポストに就くことになりました。

肩書は国際部門の部門長(部下は2人だけ)で、国際剣連の事務局も兼務しています。仕事を始めてすぐ、9か月後に韓国で3年に1回開催される世界剣道選手権大会があるから準備を進めるようにと言われたときはびっくりしました。

全剣連では、日本固有の伝統武

道である剣道を海外に普及する活動を長年行っています。具体的には、海外への日本の剣道指導者の派遣、剣道具の入手困難な国への中古剣道具の寄贈のほか、海外の剣道指導者約60名を日本に招いた1週間の合宿講習などを行っています。

一方、国際剣道連盟世界の剣道に目を向けると、現在国際剣道に加盟している国と地域は62あります。柔道の200には遠く及びませんが、国際オリンピック委員会（IOC）の承認団体でオリンピック競技、非オリンピック競技の国際競技団体の集まりであるGAISF（Global Association of International Sports Federations）にKendoとして加盟している国際競技団体のひとつです。

競技人口は日本が約200万人で圧倒的に多く、次が韓国の50万人。両国で世界剣道人口の97%を占めています。日韓に続くのが台湾、中国で1万から2万人です。欧米で剣道人口が多いのはフランスで約6千人、5千人の米国がそれに続いています。ヨーロッパでは36か国が国際剣道に加盟し、総剣道人口は2万7千人です。

剣道連盟での仕事を始めてから注力したのは、やはり各国で剣道

に取り組んでいる人たちの声をよく聞く事でした。

9か月後の世界大会に向けて初めにやったことが、韓国へ行き韓国の剣道連盟である大韓剣道会の会長ほか役員と会う事でした。剣道における日韓関係は、他の例に漏れずいろんな難しさがあります。一番難しいのが、彼らが公式の場で「剣道は韓国で生まれた武道だ」と主張していることです。剣道は武士が日本刀を使った戦いを通じて築き上げてきた武芸が起源と言われていますが、武器としての刀は世界中にあり、多くの文化が中国から朝鮮半島を通じて日本に伝わったことを考えると、剣道の起源を特定の国に決めることは、あまり意味あることではないのですが、韓国をライバル視する日本の剣道家の中には、韓国を国際剣道から排除しろという発言をする人も少なくないのが実情です。そんな中での韓国で世界大会を開催するため、とにかく韓国の主張を聴く事から準備を始めました。

何回も訪韓して夕食やお酒（実は下戸なのですが）を重ね、いろいろ話を聞くうちに、韓国での剣道の地位は、日本とはずいぶん違っていることが分かってきました。日本では部活動の他、社会人、警察など幅広い層、地域で剣道が

行われ、国体でも当然の様に剣道競技が行われています。一方、韓国ではオリンピック種目を重視する風潮が強く、数十万人の競技人口がいても国体種目から外されるかもしれないという危機感を持っていることが分かってきました。なぜ「日本で生まれた剣道」を韓国の国体種目に入れるのかという声も少なくないのが韓国剣道の切実な実情なのです。韓国での剣道の地位を守るために韓国起源説を掲げざるを得ない事情があるのです。ここでも過去のマーケティング活動で顧客の立場で考え尽くす経験が全く違う剣道の分野でも大変役に立ちました。

2021年に予定されていたフランスでの第18回世界大会は残念ながらコロナ感染の影響で中止となり、現在は2024年の第19回大会の開催国を募集しています。

剣道連盟での仕事は65歳までなので、引退まで2年足らずとなりました。私はいま剣道七段を持っています。最高位である八段に挑戦できるのは仕事を終える65歳になってからになります。八段審査は2千人が受けて合格者10人という非常に難しい審査です。残り2年間、剣道連盟での仕事と共に、八段挑戦に向けた稽古にも精進していく所存です。次はどんな景色がみられるのか楽しみにしています。

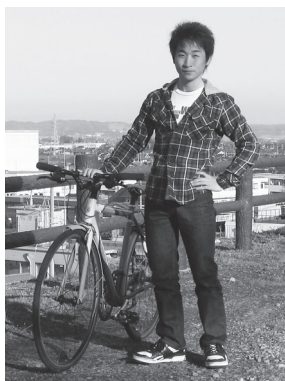
（写真は今年5月連休中に平安神宮近くにある京都市武道センターで行われた全日本剣道演武大会で宮城から来られた方との立合後に写したものです。）



人生の光明 「自分らしく生きる」

中川 悟

（平20年卒・北陸支部）



今年の新社員のコメントを聞いて、はっとさせられました。

「当たり前の日々の意味が問われる昨今、お客様一人ひとりの中にある当たり前の生活に真摯に向

き合い精進していきたい。」

この意味するところは、既存の価値観が通用しなくなっている現代社会において、向き合うべき新たな価値観は一人ひとりの中にある、ということではないでしょうか。掴み所のない今の社会にどう向き合うべきかモヤモヤしていた私の中に、一筋の光が差したような気がしました。

日本は今、成長社会から成熟社会に移行しつつあります。大量生産・大量消費の全体主義社会から、個人の自立が求められる社会へ変貌を遂げようとしています。みんな一緒に時代から「一人ひとり」の時代へ、全体主義的価値観から「自分の価値観」を軸に生きる時代が到来しています。今日では情報発信ツールの普及によって価値観の多様化が進んでいます。

また、世界では第4次産業革命が起こっています。インターネットとつながったAIやロボティクスが、ビックデータを活用して自ら学習・判断することで、社会をスマートにしていけるのです。昨今の自動運転や言語処理の進歩には目を見張るものがあります。今後は人と機械が共存するようになり、社会の仕組みが根底から変わっていくことでしょう。

ただ、どのような社会になっていくのかは、今はまだ漠然として

いますが、その発展段階ではいろいろな課題が浮き彫りになってきます。その一つとして、機械だけでなく「人のあり方」といったことにも社会が向き合うのではないかと考えています。また、自動化が進むと、人々は「自分が本当にやりたかったこと」にも向き合うようになり、その結果「自分らしい人生」を送る人が増えるのではないかと思っています。

私は旅好きなのですが、最近では自分の知らない生活習慣に触れる旅をしてみたいと思っています。世界のいろいろな地域を訪れ、その地域の文化や風習を肌で感じることで、「人が生きる」ということに向き合い、「自分らしい人生を送る」ためのヒントであったり、「人とは何か」「生きるとは何か」といったことに迫りたいと思っています。

これからの時代は、自分らしく生きることが、より多くの幸せにつながっていくのではないかと思います。幸せという言葉には「運がよい」「幸福である」という意味があります。夢や目標、家族や健康、仕事や人間関係、趣味といった具合に人それぞれで幸せのカタチや要素が異なります。私の幸せにおいては、夢や目標といった要因が大きいように思います。

人々のニーズが多様化しても、

この「幸せ」に関する欲求は変わらないのだと思います。AIやロボットが普及して社会がどれだけスマートになっても、人の「幸せ」に寄り添ったサービスを提供することは、感情や心を持たない機械には難しく、やはり感情や心を持つ人にしかできない業なのではないかと思っています。特に、相手の気持ちに共感したり、何も無い状態から物事を創造する、といった人の能力には無限の可能性を感じます。

そういった住み分けのもとで人と機械が調和しながら、価値のあるサービスを生み出し、よりよい社会を創っていただければいいと思います。

「当たり前」が大きく揺らいでいる今、変化に身を委ねて「変わることを強いられる」のではなく、この変化を自ら「自分らしく生きるための機会」と捉えるといいかもしれません。「自分らしく生きる」ことはAIやロボットにはできない尊いプロセスであり、より意義のある人生を送る一助になるものと確信しています。

今回、新入社員のコメントを通して、人生のあり方を考える貴重な機会となりました。

ちなみに「初心忘れるべからず」という名言の本当の意味をご存知でしょうか。これは慢心しないよ

うに物事をはじめた時の気持ちを思い出す、といった意味合いで使われることが多いのですが、実はさらに深い意味が込められています。

この格言を残した世阿弥によると、「初心」とは未熟な状態に相違ないものの、経験を積み成長した後にもまた「初心」があり、そのプロセスは一生続くということです。さらに、ここで言う「成長」とは、当人の内にある成長の種に物事を外から付け加えるのではなく、その種を削ぎ落とし磨きをかけて通用するものに整えることを指しています。

つまり「初心忘れるべからず」とは、削ぎ落とす前の状態でいかようにも「形」を変えることができた可能性を捨てないこと、その「形」を整えるプロセスが生涯にわたって続くことを言っているのです。これは、経験を積み「形」を覚え、慢心して成長しなくなつた状態を戒めるだけでなく、様々な可能性を秘めていたかつての状態を思い出し、新たな可能性に踏み出すあり方を示しています。

そう考えると、大切なことは、変化・成長する夢を持ち続け、「初心」を磨いていくことではないかと気付きます。昨日の自分を超えていく、今日の自分より明日はもっとよくなる。このように「初

心」をどんどん更新しながらより意義のある人生を送りたいと思います。

世の中は分らないこと・不思議なことばかりです。どれだけ科学技術が進歩しても見えてこない部分があります。「自分らしく生きる人生」「幸せのカタチ」この答えはAIではなく自分にしか出せません。日々、自分で問い続ける先にそのヒントがあるのかもしれない。「初心忘れるべからず」の言葉を胸に、日々探求しながら変化・成長していければと思います。昨日より今日、今日より明日というように。一足飛びにはいかないかもしれませんが、着実に一歩ずつ。そしてその先に、自分の生き方を「悟る」ことができる日を夢見ながら、精進していきたいと思っています。

最後に、この自分の夢に掲げた「悟」という言葉は、物事の本質を見極めるといった深い意味合いがあります。実は私の名前にもなっており、このことはとても光栄に思っています。私に「悟」という名前を与えてくれた両親にはとても感謝しています。先見の明に感謝するとともに、あらためてお礼申し上げます。この名前を私の宝にしていきます。

出張実験について

高井 智明

(平19年卒・中部支部)

私は平成19年に大学院を卒業し、生まれ育った近畿地方を出て、就職のため全く縁のなかった愛知県で暮らし始めました。以来15年、その多くを共に過ごすことになった妻は文系で、理系は未知の世界だそうです。ただエッセイ等の本が好きなこともあり、私宛の洛友会会報を読み、諸先輩による読みやすくユーモアのある文章に魅せられ、会報が届くのを楽しみにしているようです。その会報に、この度寄稿のお話を頂き、拙い文章ではありますが、エンジニアの仕事の一端をご紹介できればと思います。筆を執りました。

私は大学では佐藤亨先生の研究室で、「赤道大気レーダー」の鉛直方向の風速の測定精度を向上する方法について研究させて頂きました。アンテナ工学の単位を落とした劣等生でしたが、佐藤先生や当時博士課程におられた西村耕治先生のご指導で研究を進めた結果、S/N比が向上して等高線図上にそれまで見えなかった信号が現れ、とても嬉しかったことを思い出します。大学院では、宇治キャンパスの津田敏隆先生の研究室で、大気レーダーとライダーの

同時計測により、対流圏の大気現象の解明を目指しました。研究のまとめにインドで学会発表の機会を下さり、激辛カレーによる猛烈な下痢と引き換えに、Best Paper Awardのメダルを手に入れました。

就職に当たってはレーダーつながりということで、当時は珍しかった、先行車を検出し追突を防ぐ機能向けにレーダーを製作していた自動車部品メーカーを選びました。ただこの製品は当時あまり注目されておらず、入社試験での面接で「レーダーの力で自動車事故のない社会を目指す」と話してもさっぱり手応えはなく、後から考えると新たな分野との出会いになるのですが、専門とは関係ない研究部門に配属されることとなりました。

さて、あくまで主観ではありますが、私は比較的出張の多い研究に従事して来た気がします。沖縄には大学院の研究で初めて行き、ハブ注意と書かれた本島北部の森の中で、後輩や別の大学・研究機関の方たちと大騒ぎしながらの気象観測は大変楽しかったです。社会人になってからは、富士山の麓にある完成車メーカーの研究所の装置を拝借するため、3年間に渡って出張実験を繰り返ししました。ちょうど新しい材料の立ち上

げ期で、色々と貴重な勉強させてもらいましたし、当時を知る方から仕事の依頼等で連絡を頂けると大変嬉しく、まずは思い出話でひと盛り上がりします。

最近、大型放射光施設に熱心に出張しています。光速に近い速度まで加速した電子を磁場で曲げた際に、接線方向に発する電磁波を放射光と呼ぶそうです。私にとっては、輝度が高くエネルギーが可変なX線が使えることがメリットです。近くではあいちSRにお世話になっておりますが、一般にはSpring-8が有名かと思っています。こちらはわが国を代表する施設だけに利用の敷居が高く、本寄稿の字数と同じ2000字の作文で実験の必要性を訴える、課題申請で採択される必要があります。課題が採択される喜びは大きいですが、24時間運転のため、採択の翌日には寝られない日々への不安が始まります。ビームラインスタッフのサポートに感謝しつつも、有意なデータを持ち帰るには、インディジョーンズばりに幾多の試練を乗り越えなければなりません。体力勝負な実験に、自分のおじさん化を実感するとともに、深夜でも元気な若い学生さんたちが眩しいです。また私の出張に自分の仕事の都合を合わせ、ワンオペ育児をお願いして

しまっている妻にも、この場を借りて感謝したいです。

それにしても、高度10km以下の大気を相手にした大学時代から、電子軌道や分子構造といったAの世界を対象にしている現在まで、一貫して何とか視えないものを見ようとしていると理解しています。津田先生から、観測しただけでなく、結果を説明する理論付けができて初めて見えたと言えるとの趣旨のご助言を頂いたことを、今でもよく考えます。まとめに代えまして今後出張実験される方へ、ちょっとした情報をまとめましたので、参考になれば幸いです。

1. 長女（第一子）の出産が予定日より1週間遅れた結果、妻が退院する日が、ちょうど私の出張実験に重なってしまいました。同時に大型台風が愛知県に直撃し、この日のことは8年経っても我が家では語り草です。実験については、集中できず大した結果が得られなかったことだけ覚えています。奥様の出産時は、何をおいても家庭を優先されるべきと思います。ちなみに長女によると、お腹の中は快適でつい長居したとのことです。

2. 世界で唯一、パパかっこいいと言ってくれる娘のためにも、出張先から帰宅時の服装は気を付けなければいけません。最近はお仕事もおしゃれで機能的なものを選べるようになり、私も安全靴をスポーツシューズブランドのものに変えました。

3. 今や大衆車にも、高速道路の白線や路肩をカメラで検出し、先行車のレーダー検出と併せて限定的な自動運転する機能が付いています（すべてカメラで行うものやレーダーを併用するものもあります）。運転好きの方には煩わしい機能かもしれませんが、実験がうまくいかず会社に戻りたくなく、白線が涙で滲む時は、自動運転はとても便利です。是非一度、使用されてみてはいかがでしょうか。

最後に、私は京都大学で、多くの素晴らしい友人に恵まれ、忘れたくない楽しい日々を過ごしました。学生の皆様におかれましても、貴重な日々を過ごされることを願ってやみません。



家族旅行記

村上 勇蔵

（平17年卒・北陸支部）



みなさまいかがお過ごしでしょうか。私は、妻、長男（3歳）、次男（0歳）とともに地元の広島県で生活しています。コロナ禍でまだまだ制約のある生活が続いていますが、7月上旬に一足早い夏休みをとり、家族で東京へ旅行しました。

日常とは違う景色にふれることができ、子供連れ旅行ゆえの疲れはあるものの、思いっきりリフレッシュできた5日間となりました。同じ東京駅であっても、出張でビジネスバッグを片手に階段を早歩きしながら見える景色と、ベビーカーを押して子供と手をつないでエレベーターを探しながら見える景色はまったく別物でした。

新幹線で4時間かけて東京駅へ到着後、今回の旅行で拠点とする千葉県松戸市まではまだ在来線で1時間程度かかります。山手線の

プラレールが大好きな息子たつての希望で「山手線に乗る」ことは今回の旅行の目的の一つでした。そのため、少し遠回りになるものの、山手線、総武線、武蔵野線と乗り継いで松戸市に到着しました。地元の電車とは違う込み具合や、車両の多さに圧倒されながらも、ビル群の立ち並ぶ車窓の景色を楽しみながら息子は満足の様子でした。

東松戸駅近くに義姉一家(子4歳、2歳)が住んでおり、夕食は義姉宅で食卓を囲みました。コロナの影響で、従姉弟同士がテレビ電話で会話することはあっても、対面するのは1年以上ぶりでしたが、子ども同士はブランクを感じさせることなく、楽しそうにしていました。東松戸駅は成田空港と東京駅のほぼ中間点に位置し東京都内へのアクセスも良いため、インバウンドを意識しているのであろうホテルがあり、今回はそちらに宿泊しました。そこは、キッチンやセバレートバス付きのファミリー向けの仕様になっており、お風呂に入れたり離乳食の準備をしたりするのに便利で、大変助かりました。ホテル滞在中に外国人観光客を見かけることはありませんでしたが、コロナ以前であれば、外国人観光客が大勢利用していたのであろうと感じました。

東京滞在中は、東京スカイツリー、浅草、越谷レイクタウン、大宮鉄道博物館、お台場を義姉一家と一緒に観光しました。鉄道博物館では、新旧さまざまな電車の展示があるだけでなく、新幹線の線路に隣接している立地を生かし、レストランから東北新幹線はやぶさ号や秋田新幹線こまち号など色んな新幹線を見ることができるので、子供連れの方にはおススメです。また、専用アプリでアトラクションの予約をとることができするなど効率的に楽しめるように工夫がされています。越谷レイクタウンは、イオンモールの中でも国内最大級で、東京ドーム5個分とも6個分ともいわれています。エアコンのきいた快適な屋内で、色んなお店を見て回るだけでも気分が盛り上がりそうです。

東京での移動はすべて公共交通機関を利用しました。ベビーカーをたたんで、0歳児を抱っこした状態で乗車することが多かったのですが、込み合っている車内であつても席をゆずっていただけることが多く、感謝することがたくさんありました。地元は基本的に車社会で、子供を連れて公共交通機関に乗る機会がほとんどなかったため、席を譲る機会も譲られる機会もありませんでした。なんとなく都会の人は冷たいという

先入観を持っていたので、いい意味で衝撃的でした。普段の自分が、周りに対し思いやりを持って行動できているかを反省するきっかけとなりました。

旅行から帰ってきて一カ月が過ぎ、息子に旅行の話をしてどこに行ったかはほとんど記憶に残っていないようです。一方、「山手線と黄色の電車(総武線)とオレンジ色の電車(武蔵野線)と水色の電車(京浜東北線)と・・・たくさんの電車に乗ったこと」「従姉弟といっしょに遊んだこと」はよく覚えていそうです。

親の立場からすると、せっかくいろいろ行つたのに電車に乗ったことしか記憶に残らないのは少し残念な気持ちです。ただ、私自身も、幼少期に神戸にサーカスを観に連れて行つてもらったあと、サーカスのことはまったく記憶に残らず、新幹線と自動改札機がカッコよかったことは深く胸に刻まれました。それと同じなんでしょうね。

また、いとこ同士とはいえ、広島と東京で遠く離れて生活していると、もともと顔を合わせる機会が少ないなかで、コロナ禍でさらに一緒に遊ぶ機会が減りました。この先、コロナ禍がどう収束し、心から行動制限が緩和される日にくるのかわかりません。ただ、こ

の先もできるだけ、いとこ同士のふれあいを持てるようにしたいと思っています。

今回は妻がまだ育休中であつたため、長期旅行の計画を立てやすかつたですが、復職後は職場的に連休を取得するのは難しいようです。新婚旅行以降は、日帰りかまに一泊の旅行に行くことはあつても、長期の旅行を計画するのは何となく面倒だし無理だと感じていました。ただ、今回の旅行を通じて、私自身も子供たちも新たな発見に出会えるように、また家族旅行に行きたいと強く感じました。

同窓会だより

昭和39年卒業生オンライン会合

昭和39年(1964年)電気・電子工学科を卒業した者共は5年毎に京都で盛大な会合を開いてきました。その5年間の真ん中頃に近年関東在住者幹事で関東で会合を行ってきました。

卒業後55年同窓会は京都「菊乃井」で会合、翌日疎水船組とGOLF組で大いに楽しみました。今年2022年秋は関東組幹事で開催の番でしたが、1昨年から

「新型コロナウイルス」が蔓延。自粛ということで自宅待機を余儀なくされてきました。また皆80歳になって体力もガタツと落ち、盛んだったGOLF会も解散になりました。

そういう時期に、たまたま川野家捻君が別目的で「パソコンやスマホを使ったオンライン会議システムZoom」の契約をし、空いているから同期会オンラインをやつたらどうかと考え、三好彰君に持ち掛けたところ話が広がり、同期生のオンライン対応力を案じつつも先ずはやつてみようということになりました。確か洛友会会報に我々より下の期でオンライン会合云々とあつたように思いました。

機械とホストは川野君、世話役は三好君で始まりました。案内は最初Mail保有者全員名53名(生存者の93%)に出しましたが、川野君の招待に対し対応する各自保有の機械の関係もあり、初回は去年8月11日13名の参加、その後最大19名が参加、毎月1回スピーカー1名(スピーカーと川野君で日時決定)で約2時間。この8月27日まで13回開催、延べ213名平均16.4名の参加。テーマとしては趣味関係・佐藤勝昭君の絵関係の話など6件(テレグラフ、倭王、蝶、別子銅山等)、仕事関係..

貨物輸送の高橋君ら4件（レター、画像処理、電力）、その他顔合わせ、音楽など3件でした。発表者に名乗りを上げる人が少なく、世話人は苦勞していましたが皆さん結構楽しんでるようでした。

川野君の都合で暫し中断後、来年から再開の予定です。次回からはテーマを決めて各人が意見を言い合うなどやり方の変更が考えられています。また全員にもう一度案内を出し新規参加者を募ることも考えられます。全員80歳以上。老化防止にもいいでしょう！

2024年卒後60周年には京都で実物に会いましょう。

留岡 寛 記

支部だより

東京支部総会報告

令和4年6月25日（日）、東京支部総会を学士会館にて開催しました。新型コロナウイルスの流行状況を鑑み、昨年と同様に①現地参加と②Microsoft TeamsによるWeb会議を利用したオンライン参加とのハイブリッド形式で実施することとなりました。

当日の現地参加は11名、オンライン参加は15名で、議案についての意見を交わすことができ、盛会となりました。

【支部総会】

支部総会は午後2時より司会の佐々木総務幹事からWeb会議の進行方法について案内した後、尾上支部長による開会挨拶で始まりました。

まず、佐々木総務幹事より令和3年度行事・活動報告、南川会計幹事より決算報告が実施されました。活動報告では、昨年一年を通して新型コロナウイルスの影響下で、Web会議を駆使しての支部総会を実施した一方で、秋の講演会、春の見学会の実施を断念したことが報告されました。また、趣味の会、拡大クラスなどの多くのイベントが昨年同様に中止となったものの、一部の活動についてはオフラインまたはオンラインにより実施されたことが報告されました。決算報告では、会計監査の結果、収支状況が適切と判断された旨が報告され、承認されました。

次に、令和4年度役員として、支部長 北條博史（S56）、副支部長 平山明（S57）、幹事 角田恭之（S58）、総務幹事 南川敦宣（H15）、会計幹事 堀内健介（H16）、庶務幹事 篠田健司（H16）、若手交流会幹事 佐々木

純（H14）の就任が承認されました。その後、尾上前支部長から退任のご挨拶、北條新支部長から就任のご挨拶がありました。

尾上前支部長からは、パンデミックの中でも拡大クラス会などの活動がなされていることに加え、支部総会のハイブリッド開催に協力している役員・幹事への謝意が伝えられ、今後の同窓会活動への期待とともに退任のご挨拶をいただきました。

北條新支部長は、新型コロナウイルスの影響が継続しつつ収束の兆しも見える一方で、在宅勤務の継続など新たな生活様式「ニューノーマル」な社会への変容が起きている点に触れ、ニューノーマル時代の洛友会の活動のあり方について今年の役員・幹事と共に検討を進めていきたいとの抱負が述べられました。

続いて、令和4年度行事・活動計画と予算計画について南川新総務幹事より説明がありました。計画説明の中では、秋の講演会については一昨年同様に参加人数を絞った集合形式とWeb配信のハイブリッド形式で11月に開催予定であること、見学会も3月に開催予定であることが述べられました。その他の活動計画についても趣味の会、拡大クラス会、幹事会、若手活性化施策、支出削減策に継

続して取り組むこと等の説明がありました。また本年度から令和6年度までの時限付きで趣味の会・拡大クラス会への補助金が従来の1万円から2万円へと増額することが案内されました。いずれの行事・活動計画も承認されました。



北條新支部長



尾上前支部長

（昭和43年卒）、松田晃一様（昭和43年卒）、山縣振武様（昭和43年卒）のお名前が紹介され、拍手とともに会議参加者より祝意が評されました。

【講演会】

講演会では広島大学教授の角屋豊様より「第一部：電気系でよかった（です）」物理と応用の間で」

「第二部：座談会 日本企業における博士の役割・重要性」と2部に分けての講演をいただきました。冒頭にご自身のプロフィールとともに「電気系のいいところは幅が広いこと。物理、材料、情報、システム、といろんなものをカバーできていて、私がこれまでやってきたことがまさに電気系です。」と述べられました。在学中から卒業後の企業での活動、そして大学での研究から現在に至るまでの取り組みを紹介されました。そして電気系卒業生であれば必ず授業で習う八木宇田アンテナに触れたことを皮切りに、最近の研究テーマとして金属を扱う工工学であるプラズモニクスに話題が移りました。八木宇田アンテナは電波を取り扱いますが、これの光バージョンを制作。指向性もブロードバンド性もそれなりで使いやすいという特性が「光八木宇田アンテナ」においても同様である

ことが明らかとなり、角屋様の論文がここ10年にわたり毎年30件以上の引用がされていると述べられました。「光八木宇田アンテナ」の評価内容を解説いただいた後に、ご自身が研究をとっても楽しんでられるとのコメントをされ、第一部を終えました。

次に第二部として日本企業における博士の役割・重要性について、まずは日本国内の状況を博士後期課程の経済的な支援を中心に据えて紹介いただきました。国による支援の他に広島大学での支援を説明され、同大学では有資格者の約4割以上が支援を受けられる手厚いサポート環境があることが参加者に共有されました。その上で本テーマに対しての意見を講演会の参加者へ募られました。参加者からは「海外とやりとりするならドクターである方が有利だ。」「大学がどんな人を育てようとしているか、企業がどんな人を採用しようとしているか、マッチングが重要だ。」「ドクターのレベルが落ちていくように感じる。日本全体として競争力の復活のために考えなければならぬ。」「研究に長く従事したことが企業での採用にあたり制約条件として働いてしまうという側面もある。」といった意見が活発に出されました。最後に角屋様から大学として学生を育

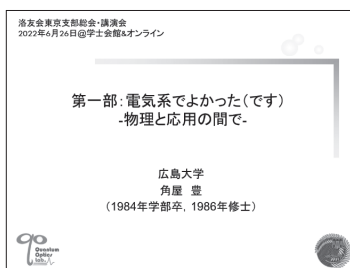
てることにこれからも注力すると述べ、講演を締められました。



現地会場



角屋教授



講演会資料

【報告】

会計幹事

堀内 健介
(H16年卒)

四国支部総会報告

令和四年度の四国支部総会に付きましては、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、昨年・一昨年に引き続き、書面(電子メールまたは郵送)での開催となりました。

本年度は、
・令和三年度会務報告
・令和四年度予算
・支部役員の改選
について審議を行い、いずれも承認されました。このうち、支部役員については

支部長 小嶋唯司(昭54卒)
※新任
副支部長 池澤 寛(昭56卒)
※新任
幹事 八田章光(昭62卒)
※新任
幹事 植原宣和(昭63卒)
幹事 神野雅文(平2卒)
※新任
と、大半が交代となりました。

四国支部では、総会の集合開催の自粛が3年目となり、「支部会員の皆さんの近況が知りたい」というご意見が複数寄せられたことから、今回の書面開催に併せて、有志にて近況(文章や写真等で自由に記載)を共有しました。近況を提供いただいた方からは、「なかなか顔を合わせる機会がない状

況で、様子がわかり非常に良い企画だった」といった感想を頂きました。

本年度の今後の支部活動については、新型コロナウイルス等の情勢も踏まえつつ、「秋の見学会」や「web講演会・意見交換会」を計画・実施していきたいと考えております。引き続き、活発な支部活動ができるよう、努めてまいりたいと考えておりますので、四国支部の皆様におかれては、支部活動へのご参加をご検討いただけますと幸いです。

美馬 圭介(平21年卒) 記



中国支部総会報告

令和4年6月24日(金)にWeb会議サービス「Zoom」を利用し、中国支部としては初の試みとなるオンライン会議にて第69回洛友会中国支部総会を開催いたしました。総会には洛友会本部から原田博司先生にご出席いただき、中国地方各地から17名の会員のご参加をいただきました。

総会は、山本幹事の開会宣言で開会されました。前田支部長からのご挨拶に続き、支部事務局から支部会員異動状況、令和3年度の支部活動状況・会計決算、令和4年度活動計画・予算案、支部役員の選任についてご説明・ご提案を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。なお、活動計画の中で、支部会員同士のコミュニケーション円滑化のため、連絡先等確認活動を行うこととしております。今後、確認活動を進めるにあたっては、ご協力・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

続いて、原田先生から洛友会本部や教室の近況についてご説明いただき、卓越大学院プログラムとして採択された「社会を駆動するプラットフォーム学」につい

ご紹介いただきました。出席者からはご説明内容に関する質問が続き、活発な意見交換の場となりました。

例年であれば、総会に続いて懇親会を開催するところですが、今回は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、オンライン会議にて総会のみ開催いたしました。来年度については、新型コロナウイルスが収束し、対面での開催が可能となるよう、祈念しております。開催方法および日程等、詳細については支部事務局よりご案内いたしますので、今年度ご参加いただけなかった方につきましても、是非ともご参加いただきますようお願いいたします。

伊藤 達理（平22年卒）記



中部支部総会報告

令和4年度の中中部支部総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場での開催を見送り、書面開催と致しました。令和3年度支部事業報告・決算報告、令和3年度会計監査報告、令和4年度支部事業計画・予算審議の各議案および電気系教室の近況について、6月10日から6月末まで洛友会中部支部のホームページ上に掲載し、会員の皆様からのご意見を募集致しました。7月3日にWEB開催した幹事会にて各議案が承認・決議されました。各支部行事につきましては、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、開催していく予定でございます。

今年度の中中部支部秋の例会は、11月5日（土）に開催を予定しております。東西の電力系統の電力融通に重要な役割を担っている飛騨変換所を見学し、高山市の古い町並みを楽しんでいただく会といたしましたので、是非ふるってご参加ください。

河野 弘樹（日8年卒）記

九州支部昼食会報告

九州支部では支部総会の他に昼食会・夕食会等の会合を実施しておりますが、その活動の一環として令和4年9月3日（土）12時より、福岡市中央区天神の華都飯店にて、定例の昼食会を開催しました。

コロナ禍にもかかわらず、当日は11名と多数のご参加をいただきました。そのうち1名は初参加の中山さん（令3年卒）で、初めに簡単に自己紹介していただきました。中山さんのご参加を、参加者一同大変喜んでおられ、万雷の拍手で中山さんを歓迎いたしました。

その後、深堀さん（昭44年卒）からコロナ禍での日常やプールでのエクササイズについてお話いただき、乾杯のご発声をいただきました。

しばしの歓談後、能見支部長（昭54年卒）より、8月に日豪親善のためにオーストラリアに出張された際のお話をいただきました。

その中で、第2次世界大戦時の日本人捕虜のカウラ脱走事件等について、資料をもとに説明していただきました。第2次世界大戦時に日本とオーストラリアが戦闘していたことやカウラに戦没者霊

園や日本文化センターがある事実について、みなさん興味深く聞かれ、活発な質疑が行われました。終始和やかな雰囲気、近況報告などに花を咲かせましたが、あっという間に予定の時間を過ぎ、お開きとなりました。最後は、初参加の中山さんに締めのご挨拶をしていただき、温かい歓迎に対して感謝をお伝えしました。

なお、今回の昼食会では初めての試みとして、遠隔地の会員とオンライン接続することで、リモート参加と集合参加のハイブリッド開催の試験的な取り組みを実施しました。結果は概ね上手くいったため、今後機材も揃えていき、遠隔地の会員も気軽に会合に参加できる体制を整えていく予定です。

また、これまで昼食会は平日に実施することもあったのですが、みなさんが余裕を持って参加できるように、今後は土日開催で検討していきたいと考えております。九州支部としては、今後も会合内容の充実や参加者の拡大に取り組んでいきます。

田中 仁志（平22年卒）記



訃報

昭32 森 匡明 4・6・30
昭33 杉岡 良一 4・8・9
昭56 大津山公平 4・8・1

以上の方がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

CUE 48号

発行のお知らせ

cue(電気関係教室技術情報誌) 48号が発行されました。目次は以下の通りです。冊子の配布はありませんので、HPよりダウンロードしてご覧下さい。

<http://www.s-ee.kyoto-u.ac.jp/ja/information/cue/>

巻頭言

「慣れと挑戦」

松本 紘

大学の研究・動向

「スピントロニクス技術を用いたメモリデバイス」

極微電子工学分野

産業界の技術動向

「オムロンサイニックエックスにおける機械学習研究の最先端」

米谷 竜

新設研究室紹介

研究室紹介

修士論文テーマ紹介

高校生のページ

「宇宙線による情報システムの誤動作―メカニズム解明と対策技術の開発を目指して―」

橋本 昌宜

学生の声

呉 逾倫
和泉 孝紀

教室通信

「エレクトロニクス・スプリングキャンプの実施」

編集後記

令和4年度懇話会 開催のご案内

在校生(学生会員)と卒業生(正会員)の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励するために、洛友会と電気系教室との共催で懇話会を毎年開催しています。今年度は左記のように開催しますので、奮ってご参加下さるようご案内いたします。

記

日 時… 令和4年11月22日(火) 15時30分～17時10分
場 所… 吉田キャンパス電気総合館大講義室

プログラム(予定)…

15時30分～ 開会挨拶

電気電子工学科学科長 松尾哲司教授

15時35分～ 「プラズマ理工学から辿る科学史

～マクスウェル・ボルツマンの時代」

橘 邦英 先生

(京都大学名誉教授)

16時20分～ 「東海道新幹線を支える技術の歩みとたゆまぬ進化への道筋」

岡嶋 達也 氏

(JR東海・昭61年卒)

17時05分～ 閉会の辞

※懇親会の開催につきましては現在検討中です。

決まり次第、HP等でお知らせいたします。

連絡先… 電気電子工学科事務室

電 話… 075-753-5273

FAX… 075-753-5271

Eメール: konwa-kai@kuee.kyoto-u.ac.jp